



糖尿病認定看護師のご紹介



糖尿病看護認定看護師
山下 亜希

2009 年より日本糖尿病療養指導士 (Certified Diabetes Educator of Japan=CDEJ) の資格を活かして糖尿病看護専門外来を運営してきました。より専門性の高い知識を持ち糖尿病患者様の支援を行うため昨年研修を受け、2012 年度より糖尿病看護認定看護師として従来の糖尿病看護専門外来を糖尿病療養相談外来と改め活動しています。

糖尿病療養相談外来では主に療養相談、フットケア、インスリンや GLP-1 製剤の自己注射導入、血糖自己測定導入の支援を行っています。現在は、当院の内科外来を受診されている患者様を対象として活動していますが、「大津糖尿病地域連携パス」を用いて、地域の先生方と連携をさせていただいている患者様も多数いらっしゃいます。

今後は、2 人主治医を持ち地域で生活をされている患者様や糖尿病を抱え持つ方たちを対象としたフットケアや療養相談にも力を注いでいきたいと考えています。糖尿病看護認定看護師が行うフットケアや療養相談に関心をお持ちの糖尿病患者様がいらっしゃいましたらご紹介いただければと思います。よろしくお願いいたします。



救急認定看護師のご紹介



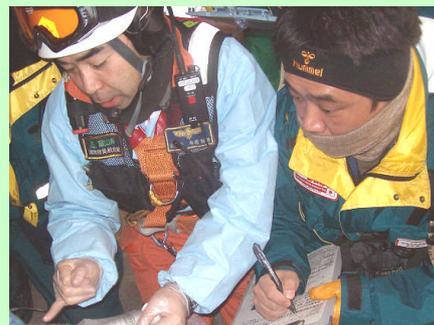
救急看護認定看護師
吉田 修

大津市民病院 ER(Emergency Room;救急外来)は、重症患者から高齢者医療まで幅広い患者層に対し、質の高い医療の提供に努めています。目まぐるしく変化する高度先進医療と、複雑化する救急医療ニーズに対し、適切に対応できるよう、救急救命技術の向上と、質の高い看護の提供を目指し、日々スタッフとともに努力しています。救急医療の対象は、早期の全身管理が必要とされるため、スタッフが迅速な対応と根拠をもった看護実践を行えるよう指導・教育に関わっています。また救急という非日常の緊迫した状況の中、安心して心を許せるような存在になりたいと考え、積極的に家族支援を行えるような組織作りを目指しています。

また院内だけでなく、一般市民向けに行う心肺蘇生術の普及や、DMAT(災害派遣医療チーム)として東日本大震災の医療班派遣にも参加させていただいた経験を、地域の災害対策に生かし、今後も災害医療の一翼を担い続けたいと考えています。



院内AED・BLS研修



東日本大震災時 DMAT 隊員として(右側)



感染管理認定看護師のご紹介



感染管理認定看護師

(写真左より)

松下 弘美 横谷 恵

感染管理認定看護師の松下と横谷と申します。

認定看護師とは、特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護が実践できる者として、日本看護協会が認定した看護師のことです。このうち、感染管理認定看護師は感染予防・管理に関する実践・指導・相談を行う役割があり、具体的には医療関連感染サーベイランスの実施やマニュアルの作成・改訂、職員への教育や相談を担当しています。

ここ数年で感染対策の考え方は大きく変化し、エビデンスのある対策を中心に実践するようになりました。それと共に感染管理認定看護師へのニーズも高まり、現在、全国には 1614 名の感染管理認定看護師がいますが、滋賀県内に限定すると 33 名であり、どの施設にも感染管理認定看護師がいるわけではないと思います。現在、'病院感染'は'医療関連感染'と呼ばれていますが、これは病院だけでなくクリニックや診療所、長期療養施設

さらには在宅などで発生する感染が注目されているためです。今年度の診療報酬改定でも【感染防止対策加算 1】【感染防止対策加算 2】【感染防止対策地域連携加算】が新設されました。これは医療機関同士が連携してカンファレンスを行ったり、相互に評価を行うことが加算を算定する条件となっています。このように、現在は自施設の感染対策だけでなく、地域全体で連携して感染対策に取り組むことが必要とされており、私たち感染管理認定看護師も地域における活動を積極的に行っていきたいと考えています。

感染対策は、医療現場で働く職員ひとりひとりが正しい知識を身に付け、実践する必要があります。ただし、実際の医療現場は多忙であったり、必要な物品が揃ってなかったり、具体的な感染対策の方法がわからなかったり・と、色々な悩みを抱えているのではないのでしょうか。当院では、感染予防に関する相談窓口として、『感染予防看護専門外来』を開設しています。これは当院入院中又は外来通院中の患者様を対象としていますが、感染予防・防止に関する内容であれば、どなたでも相談を受け付けています。それぞれのご施設でお困りのことがございましたら、感染管理認定看護師までご連絡いただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎滋賀県難病従事者研修会

12月4日(火) 13時00分～16時00分

栗東芸術文化会館 さきら

・「グリーンケア、ビリーフケア」

大津市民病院 臨床心理士 笹田 侑子

・「ケアを提供される方々のストレスマネジメント」

滋賀医科大学 家庭医学講座 非常勤講師 田村祐樹

◎総合内科症例検討会

12月5日(水) 17時30分～(約1時間)

9階A・B会議室

「褐色尿に気づき来院した高齢男性の一症例」

◎滋賀県病院協会主催「平成24年度 退院調整関係者研修会」

12月13日(木) 13時30分～16時30分

滋賀県庁東館7階 大会議室

「病院の退院調整関係者に期待すること」

※ 退院調整に関してご意見、ご希望がありましたら地域医療連携室に

お聞かせください。

TEL : 077-522-8192 FAX : 077-522-0192

◎NST 勉強会

12月27日(木) 17時30分～19時00分

9階A・B会議室

「経腸栄養管理における下痢対策」

外来通院手術部診療部長、外科医長兼務

加納 正人

※筆記用具・電卓をご持参ください。

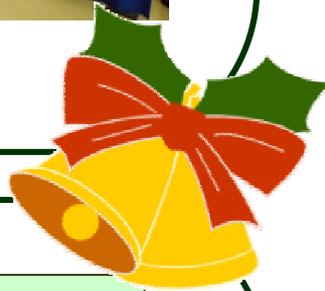


11月10日に大津市民病院大学・公開講座を開講しました。

11月14日の世界糖尿病デーにあわせて、「糖尿病 110 番～糖尿病を知ろう～」と題し、医師、看護師、管理栄養士、理学療法士からの講義、個別指導、「からだにやさしい運動の実践」、ご協力いただいた糖尿病関連各社の展示など盛りだくさんの内容となりました。

参加者の方からは「素晴らしい講義で糖尿病のことが良くわかりました。」「セラバン体操が楽しかった。」「運動方法を教えていただいたので実践しようと思います。」「実際に食品の展示があり、資料をもらえて良かった。」などたくさんのご意見をいただきました。

今回の講座で糖尿病に関心を持ち、生活習慣を見直していただける一助になったのではないかと思います。



一類感染症病棟の入退室に伴う研修会を開催しました。

11月26日に「1類感染症病棟に患者が入室したとき、入院に関わる医療従事者が適切な防護策が実施できることを目標とした訓練」を行いました。

保健所からの連絡に始まり、実際に防護服に身を包み搬送・診療を行う本番さながらの訓練となりました。訓練終了後の反省会では「素肌が見えてしまうので手袋の袖の長さをもっと長くしたほうが良い。」「トランジット・アイソレータから患者さんをベッドに移すときに重たすぎてマンパワー的に不足している。搬送スタッフの力を借りることはできないか。」等、それぞれの立場からの問題点が挙げられました。

「あってはならないことですが、万が一起こったときには適切に対処できるよう、今後も職員一同気を引き締めて取り組みたい。」と思いました。

(またこの様子は同日 NHK「おうみ 610」で放映されました。)

